



# 未来をつむぐ

地域課題を解決する糸口は、地域の外にある力なのかもしれません。今、市内では住民以外の若い世代が課題解決につながる新しい風を運んでいます。斬新なアイデアやエネルギーが、その地域独自の持つ力と交わり、夢ある未来をつむぎはじめています。

## CASE 1.

### 学生が語り合いから地域をつなぐ「かたつむ邸」 <岡・目川>

#### ■「東海道ほっこりまつり」をよりよいものにしたい

毎年、多くの来場者で賑わう「東海道ほっこりまつり」。平成24年に6回目の開催を迎えるにあたり、「今まで地元が主体になって開催してきたまつりを今後さらに発展的に続けていくため、若者の力を借りたい」とまつりの実行委員会が社団法人環びわ湖・大学地域コンソーシアムの大学地域連携課題解決支援事業に応募。ここから、龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科と岡・目川地域との協働が始まりました。

学生は、江戸時代に地域の名物であった豆腐田楽を同時に食べる「100人同時に目川田楽」や、チンドン屋などになって街道を練り歩く「東海道ほ

っこりコスプレ道中」など、斬新なイベントを提案。まつりは例年以上に活気にあふれました。大成功に終わった後も、学生は地域の伝統行事などに参加し、絆がより深いものになっていきました。

#### ■地域の交流拠点として「かたつむ邸」を開設

学生と地域との交流は続き、平成25年には、目川にある東海道沿いの古民家を借り、岡・目川地域の交流拠点として「かたつむ邸」がオープン。名前のとおり、「学生と住民との語り合いの中からまちの未来をつむいでいこう」との思いが込められています。「かたつむ邸」は定期的に開放され、地域の皆さんが提供した地図や写真を見なが

目川まちづくり委員会  
景観ルーター部会  
プロジェクトリーダー  
山内勝洋さん



「かたつむ邸」の入り口には、地域を紹介したパネルが3枚掲示されています。まちづくりの取組みの一つとして平成26年度に目川自治会・岡自治会でそれぞれ作成したものと龍谷大学の学生が作成してくれたものです。

目川自治会では新しい住民の皆さんが増えています。「かたつむ邸」はちょうどバス停や郵便局の前にありますので、これらのパネルを見ていただき、少しでも地域を知っていただけたらと思います。立ち寄ってくださる人は、地域住民だけでなく、近隣市や遠方から東海道を楽しむ人などさまざまです。だれもが気軽に訪れていただき、学生の皆さんと力を合わせて、目川・岡の魅力を生かして市内外に広めていくことができたらと思います。



- 1) 地域の人に案内してもらいながら、まち歩き
- 2) ほっこりまつりで百人同時に目川田楽を食べました
- 3) 学生手作りのパネルで四季折々の行事を紹介

ら、また、地域の歴史や伝統、昔話に耳を傾けながら、「語り合い」を中心に両者のふれあいが深まっています。学生は、積極的にまち歩きや地域行事にも参加。住民とより近い関係を築きながら、学びをいっそう深めています。

### ■岡・目川地域のつながりを深め、魅力を高める

本年度、「かたつむ邸」に関わっているのは13人の学生。9月5日の開放日には、学生4人と住民6人との和やかな会話が続いていました。話題は自然に、10月25日開催の「東海道ほっこりまつり」の企画の話へ。今年も竹灯籠づくり、トリックアート、一枚の写真を分割し、片方を持つ人を探す「パートナー探しゲーム」など、学生ならではのアイデアが盛りだくさんの内容となっています。

「若い人の考えは自分たちと違って、マンネリ化が払拭されます」「準備からともに進めているので、一つのイベントを通じてより絆が深まります」「岡と目川をみんなが結んでくれています。二つの地域の交流も深まっています」「大学生が地域の身近な人になりつつあります。まるで孫のような存在です」と話す地域の皆さん。

「草津駅からここに歩いて来る時の、のどかな景色も楽しんでいきます」「夏まつりにも参加しましたが、顔をみかけたら『よく来たね』と言ってくださり、地域の方の温かさを感じます」「とても居心地がよく、『語り合いの場』として成長できる所です」「聴く側になることが大切だと考えています。伝統行事なども子どもたちに伝えていくことのできる場になれば」と話す学生の皆さん。

学生の存在が岡・目川地域のつながりを深めるとともに、魅力を高め、活気あるまちづくりにつながっています。



笑顔あふれる語り合いの場。「東海道ほっこりまつり」の詳細はお知らせ版8ページをご覧ください。



## 地域の誇りを受け止める

龍谷大学社会学部  
コミュニティマネジ  
メント学科専任講師  
笠井賢紀さん



平成24年の東海道ほっこりまつりの企画運営から始まり、強くなっていった地域とのつながり。「このつながりをいかし、拠点施設を作って、交流人口を増やしたい」という思いが一致し、「かたつむ邸」が開設されました。

「かたつむ邸」の目的は、愛着の醸成、交流の促進、空気の把握（まちの空気を読むこと）です。学生の自主性にまかしていますが、学生が将来的なビジョンをしっかりと持つことが大切です。今後、地域の誇りを学生が受け止め、発信していくことができればと思います。



龍谷大学社会学部  
コミュニティマネジ  
メント学科3年生  
高橋知輝さん

2回生の時から「かたつむ邸」に関わっています。地域の皆さんは温かく、昨年初めて「かたつむ邸」を訪れた時も、「よろしくね」と迎えていただき、先輩が築いてくれたものの大きさを感じました。先輩の思いをつなげていくことができるように、行事などには積極的に参加し、より地域を知るようにしています。田植えなども一緒に行き、子どもたちとも仲良くなることができました。

「かたつむ邸」に関わるうちに、案外、「話したい自分」がいることに気付きました。「皆さんの経験話を話してもらう場」とハードルが高いですが、「のんびり、互いにおしゃべりを楽しむ場」といった両者にとって気軽な場所でありたいと思います。





CASE2.

## 清流の里を維持するため、ともに汗を流す「棚田ボランティア」

### <走井>

#### ■棚田のある美しい環境を維持したい

平成16年度より、棚田の保全を目的に、全国に先駆けて滋賀県が実施する「しが棚田ボランティア」。県内各地で実施されてきましたが、平成26年度から、走井地域もこの制度により、ボランティアの受け入れを始めました。

棚田が美しい走井地域は琵琶湖を一望できる山頂にある自然豊かな地域。「清流の里」と呼ばれるように、清らかな美しい水、肥沃な大地、冷涼な気候が、「こんぜ清流米」をはじめとする、安全でおいしい農作物を育てています。

その一方で、過疎化や高齢化が進み、耕作放棄田や獣害が増え、美しい環境の維持が難しくなっています。このため、ボランティアの受け入れにより、活性化を目指す取組みが始まりました。

#### ■草刈りや草引きを地域の皆さんとともに

棚田ボランティアの内容は、農道や休耕農地の草刈り、水路の泥上げなどで、昼食を挟んで約6

時間。参加したい人は、実施日までに自治会長に申し込みます。9月6日の活動には、大学生を中心に20人の皆さんが集まり、雨が降る中、約1時間半の活動を行いました。

立命館大学3回生の坂本瑞希さんも参加者の一人として、プランターの草引きで汗を流しました。村松経子さんに地域のことを教えてもらいながら作業した坂本さん。「草津市在住ですが、栗東にこんな素敵な所があるとは知りませんでした。来る時にバスの車窓から見える景色が印象的でした。収穫祭『Harves-Ta HASHIRI』など地域の取組みや住んでいる人達のことなど初めて知ることが多く、勉強になりました」と話してくれました。



村松さん(左)と坂本さん。「今年の収穫祭では竹で茶室を作り、抹茶体験を楽しんでもらえるようにします」と村松さん。

### <走井の恵みで歓迎>

棚田ボランティアに自家製のお茶を振る舞う中西まさ子さん



家でとれたゴボウ、ドクダミ、ピワや柿の葉、シソ、クマザサ、ミカンの皮などを調合し、ブルーベリーやナツメで香り付けした手作りのお茶をボランティアの皆さんに飲んでいただいています。手間はかかりますが、この健康茶を「おいしい!」と言っていただくことも多いです。また、家には昔から絶えることのない湧き水があり、これも自然の恵みです。

走井地域は16軒しかなく、住民だけでは、今日のような草刈りなどは負担が大きいです。ボランティアの皆さんの若い力は非常に大きく、毎回助けていただいています。







1)2)雨の降る中、作業するボランティア参加者と地域の皆さん 3)甘中裕美子さんの手作り料理。トマト・自家製みそを使ったみそ汁と、バジル・ペンネ・パレスチナのハーブを使ったおからサラダ 4)5)山田さん(右)の話に熱心に聴く、また、草刈りで汗を流す川尻さん 6)中西さん(右)から地域の話聴く坂本さん。「Harves-Ta HASHIRI」のビデオ上映や木造地藏菩薩立像の公開もあり、より地域を知る機会に。

■日常的に走井に人が来る機会を作りたい

作業後は、公民館で、新規就農者である山田拓哉さんのパートナー・甘中裕美子さんが山田さんの育てた野菜を使って作った料理を味わいながら、参加者と地域の皆さんとの会話が弾みます。

山田さんは、平成24年から始まった、走井の魅力発信する収穫祭「Harves-Ta HASHIRI」の企画者でもあり、地域活性化の一翼を担う一人。平成22年に走井に移住し、新規就農して耕作放棄田を開墾し、安全・安心な野菜を作り続ける山田さんは次のように語ります。「走井はとても開かれた地域です。移住して、一番最初の自治会行事であった敬老会にパートナーと参加した時、事前に私たちには知らせず、その場で歓迎会をしていただき、地域の温かさを感じました。若い人が少なく、人の力が足りていない地域ですので、今後、棚田ボランティアや『Harves-Ta HASHIRI』のように、日常的に人が走井に来てもらえる機会を作り、地域活性化につながればと思います」。

山田さんの隣で熱心にメモをとるのは、龍谷大学農学部1回生の川尻貴大さん。「高校生の頃から将来は農家になりたいと思ってきました。ここは机上ではなく、実学ができる貴重な場です」としっかりと夢を見据えた瞳で語ってくれました。

■地域外の人を受け入れることで、地域が変わる

自治会長である、中西守さんは地域外の人による地域の活性化を語ります。「空き家に移住して

くれた山田さんの存在も大きいですが、今、棚田ボランティアを体験した二人の女性がこの地域を気に入ってくださり、耕作放棄田で野菜づくりをしてきていて、活気が生まれてきています。走井の人口は50人で、そのうち60歳以上が25人。棚田のある美しい環境を保全し、地域を維持するためには新しい若い力が不可欠です。棚田ボランティアのように、外の人を受け入れることで走井がよい方向に変わっていくことができれば」。

9月には古民家を活用し、馬で人の心を癒す介在療法「ホースセラピー」の施設もオープンした走井地域。多くの人を受け入れることにより、着実に、夢ある未来がつむがれています。



走井の魅力発信！～農業×食×音×交流 年に一度の収穫祭～

【Harves-Ta HASHIRI 2015】

日時…10月18日(日) 11:00～17:00

場所…走井地域 ※facebookで詳細を発信中!

内容…【食事】県内のレストラン出店、オーガニックフード、ジビエ料理などを販売【体験】竹細工、子ども向け楽器作りなど【音楽】民族楽器・バンドライブ、江州音頭

入場料…1,500円(中学生以下無料)

問合せ…Harves-Ta in HASHIRI実行委員会

☎090-9255-8446(山田)

<新しい風を運ぶ人々>



立命館大学3回生 山田啓祐さん(左)と津塩崇弥さん

棚田ボランティアで草津駅からバスで来る時、外の景色と細い道を進んでいくバスが印象的でした。軽トラックを運転して木を捨てに行くという重要な仕事を自分たちに任せてもらい、うれしく、やりがいを感じました。



京都市山科区在住 田路智彦さん(41歳)

山田拓哉さんの知り合いで、昨年の秋から走井に畑を持ち、無農薬で野菜づくりをしています。獣害もありますが、地域の人々が温かく、風の音や虫の声なども楽しめる自然豊かな環境が気に入っています。地域の伝統行事にも参加しています。